

超撥水剤 TiO_2 使用のバス兼用介護ベッド

企 業 / (株) 常磐ボーリング

研究者 / 山内五郎（大同工業大学機械工学教授）

日本人の高齢者の人口は増加の一途をたどっており、2000年には日本国内の全人口の17%が、2020年には25%の4人に1人が65歳以上となる超高齢化社会になる見通しである。それと同時に病床者(病人、身障者、老人等)の数も増えることが予想され介護が深刻な問題となっている。病床者を入浴させるためには、数人の介護者が必要で、もっとも負担となるところである。介護者不足は入浴の回数が減り、痔病や、床ずれ炎症の原因となっている。

「自力で入浴できない病床者の入浴介護を1人の介護者で行う」のコンセプトに基づき、ベッドの床面を下ろし「浴槽を形成するベッド装置」と、ベッド使用時はシートとして、入浴時は浴槽の免水を防止し温水を貯留することを目的とし、かつ、殺菌効果のある「 TiO_2 と超撥水剤を含んだ非透水シート」及び浴槽の排水を効率的に行う「スパイラルフロー」を組み合わせ、「超撥水剤 TiO_2 使用のバス兼用介護ベッド」としてまとめ「省力介護」の実用性の確認を目指した。

「バス兼用介護ベッド」は、病床者を移動させることなく、使用しているベッドを浴槽にして入浴させることができる。病床者の清潔を保ち、病養の温泉効果が期待できる。また、失禁時の処理も容易である。非禁水シートは雑菌による病床独特の臭いを除去する効果が期待できる。



バス兼用介護ベッド